

に殺ひんと果奪西走り結果漸くこれに整ふ事を得ました。
然し左加う十三日は松方公の國葬日十三日は日曜日に
銀行が休みであるとして十四日故郷より従兄が携さ
て参るべく左の如斯電報迄到着し居る次第である
誠は遠路御足労を幾許申辭すべし特別の御憐
愍を以て十八日正午迄御給言ありたしと電文迄ホ
陣謝しませ。依而吾等は協議を致し實際に於て間違
なきに非らば再給陳を認むる方ならずと決し且つ與
々も訓悔を興へて歸念し居る。歸念後改議を致し萬
るの打合を承し太田・藤野の両親事は田中氏に一切を委
任し、尙ほ七川親父は電文にて一切を加存せしめ、氏に委
任する事とせしめられ、當日即ち十八日に至り田中氏より
岡長に昨夜より宛書に罹り、其意を以て一雨日延

期せられ、その事ありし故是非なく左快を待たせし
再交渉に思ひ入り然るに彼小高君は意外に右言を左右
にし（従兄が病氣に罹り一日二日延引する所になつたこと）
所言を練返すのみ誠意は此にあらずや、其の認むること
得ず、嗚呼、とて只た尊款無恥なる彼の面を視つのみ
是非なく考慮の上返答する事と歸念し岡村ら善
後策は箇一之、極首協議を重ね最早一日たりと給言
するの筈也、所を以て今急務に思ひ居るや、斷固たる
處置を講ずる一策あるのみと決し、然して現任長が存
在せし、其に即ち任するべく致し、一悔あり、岡長は存念の刻
を考てあり、今固し念の爲めに自らの職業を擲てま
本を復興に盡さん人あり、今後念を盡し、
岡長がかりて、此の思ふに、其に、任するが便宜と考